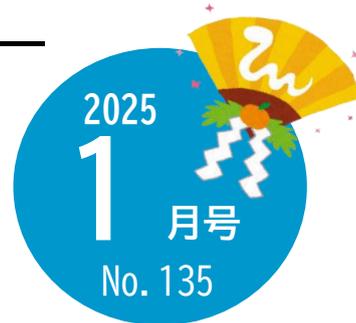




放送大学栃木学習センター

とちの実

Tochinomi



新年のご挨拶

皆様、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。
新年早々には2学期単位認定試験を迎えます。
厳しい寒さが続いておりますので、風邪をひかぬようお気をつけて、
しっかりと準備を整え臨んでください。
今年もまた、栃木学習センター職員一同は、
皆様方の学園生活をきめ細かくサポートしていく所存です。
本年も、何卒よろしく願いいたします。

放送大学栃木学習センター職員一同

目次

巻頭言	p.2	図書だより	p.10
2024年度第2学期単位認定試験	p.3~4	学生研修旅行/所長とランチのご報告	p.11
次学期の準備	p.5~6	2024年度第1学期卒業生からの アドバイスやメッセージ	p.12~p.14
公開講演会のご案内	p.6	新任・退職職員挨拶	p.14
特別ゼミのご案内	p.7~9	キャンパスカレンダー	p.15
教務だより	p.9	学習相談日	p.16

巻頭言

共生社会と教育

宇都宮大学教授 岡澤 慎一



障害のある子どもの教育について、かつて障害の重い子どもは就学の猶予、免除の名のもと、学校教育を受けることができなかった。しかし、1979年には養護学校教育義務制が実施され、いかに重い障害を抱えている子どもであっても学校教育が保障されることとなった。中央教育審議会が養護学校教育義務制の実施を答申したのが1971年であり、そのときから現在まで約50年、半世紀が経過した。この間、養護学校（現在の知的障害、肢体不自由、病弱の特別支援学校）の整備が図られ、様々な教育行政施策が重ねられ、障害のある子どもの教育をめぐる状況は大きく変化している。例えば、子どもの数については、小学校や中学校、高等学校等においては減少しているにもかかわらず、知的障害特別支援学校においては増加している状況がある。これには、障害のある子どもの教育に対する理解が広がるとともに、一人一人の子どもの持てる力が十分に発揮される状況を保障することを願う思いがあることが一因として考えられよう。しかし、特別支援学校に在籍する子どもは居住する地域から離れて通学することが多く、こうした状況に関して、従来、地域における住民同士の相互理解の促進や地域とのつながりの形成などの点において、課題が指摘されている。また、これまで、ともすれば、障害のある人が自立するためには様々なことを個人が独力で行なうことができることが求められた。しかし、こうした視点は、障害という厳しい条件を抱える人に対して、通常の人と比して、幼少期から自立に向けたさらなる過度な努力を求めることになりかねない。障害があるがゆえにこうした努力が求められるのであれば、適切なこととはいえない。

今後は、障害の有無に関わらず、多様な条件を有しながら生活する誰もが持てる力を十分に発揮し、相互に理解を重ね合いながら共に生きる社会に向けて歩を進めていくことが重要である。障害のある子どもの教育については、居住する地域において、障害のない子どもと共に学び、生活できるようになる方向にいつそう進んでいくであろう。その際、障害のある子どもが障害のない子どもと等しい条件で教育が受けられることを保障する種々の配慮が重ねられることが重要であることはいうまでもない。学齢期における障害の有無による子ども同士の分離を解消していく方向に対応を進めていくことが重要であり、こうした分離を経験しない子どもたちが、今後のインクルーシブ社会形成の大きな一翼を担っていくことが期待されよう。こうした状況において、学校教育が果たす役割はきわめて大きい（特別支援教育の在り方に関する検討会、2024）。

わが国において、目と耳の両方に障害がある盲ろう児の教育に係わった心理学者の梅津八三は、ある人の内面において、ある時に起こる“つまづき”や“とまどい”、“とどこおり”が“障害”であり、係わり合う人の相互に“障害”が起こっていることを「相互障害状況」とした。そして、「相互障害状況」からの立ち直りを重ねることを「相互輔生」とした。「輔」は「たすける」の意であり、「相互障害状況」からの立ち直りにおいては、係わられる側のみではなく、係わり手側もまたたすけられている。これからの50年を見据え、こうした認識の延長線上において、真の共生社会は実現していくものと考えている。

2024年度第2学期単位認定試験

実施方法(Web受験・郵送受験)および出題形式(択一式・記述式・併用式)によって試験期間が異なります。
各科目の試験期間をよく確認してください。

通信指導の合否結果

通信指導の合否結果は、1月7日(火)(予定)に大学本部より送付される「単位認定試験通知(受験票)」を確認してください。

※1月10日(金)になっても到着しない場合は、大学本部学生サポートセンター(TEL:043-276-5111)にご連絡ください。

試験期間

実施方法	出題形式	試験期間(郵送試験は提出期間)
Web受験	択一式科目	2025年1月19日(日)9:00~1月27日(月)17:00
	記述式・併用式科目	2025年1月19日(日)9:00~1月23日(木)24:00
郵送受験	すべての出題形式	2025年1月19日(日)~1月23日(木)《必着》

実施方法(Web受験)

- ・ インターネットを通じ「Web単位認定試験システム」にアクセスし、問題閲覧・解答提出を行います。
- ・ 試験期間中は自宅等からいつでも受験できます。
- ・ 1科目50分の制限時間があります。(一時停止不可、各科目1回のみ受験可能)
- ・ 出題形式には「択一式」「記述式」「択一式と記述式の併用式」があり、各科目の出題形式は「2024年度第2学期授業科目案内」(p.38~p.147)に掲載しています。

郵送受験科目について

- ・ 「正多面体と素数('21)」(記述式)、「日本美術史の近代とその外部('18)」(記述式)、「量子化学('19)」(併用式)、「行政学講説('24)」(記述式)の4科目のみ、郵送受験で実施します。
- ・ 1月上旬ごろに大学本部から送付される問題用紙・解答用紙・提出用封筒を用いて、試験期間内に郵送で解答を提出します。(試験時間の制限なし)

試験の結果

2月13日(木)公開予定のシステムWAKABA「教務情報→履修成績照会」、または2月18日(火)に本部から発送予定の「成績通知書」で、試験結果を確認することができます。

※「成績通知書」の到着を待っていると科目登録に間に合わない可能性があるため、システムWAKABAでの確認をおすすめしています。

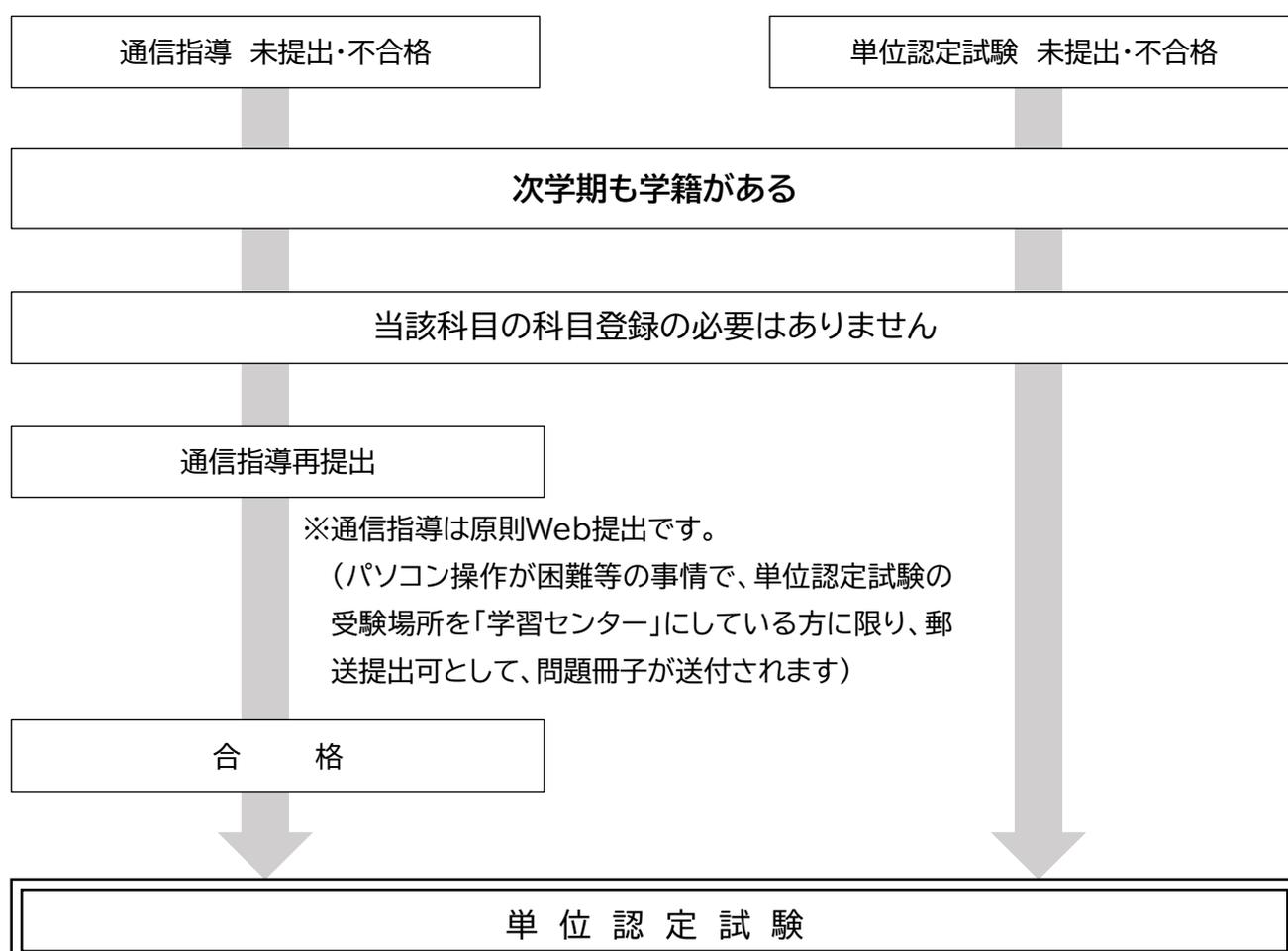
再試験について

2024年度第2学期に新規登録した科目のうち単位修得できなかった科目は、2025年度第1学期に学籍がある場合に限り(休学中を除く)、科目登録をしなくても再試験を受験することができます(再試験に係る授業料などはかかりません)。

※2024年度第2学期で在学期間が終了する方は、再試験を受験するには継続入学の手続きが必要です。

※オンライン授業科目は、通信指導および単位認定試験を行わないため、再試験はありません(一部科目を除く)。単位を修得できなかった場合、再度科目登録が必要です。

詳しくは「学生生活の葉」(教養学部p.74～、大学院p.73～)を参照してください。



次学期の準備(科目登録・継続入学)

次学期も学籍がある方は、「科目登録申請」

(詳細は1月中旬に大学本部から送付される「科目登録申請要項」を参照)

- システムWAKABAによる申請 2月13日(木)9:00～2月28日(金)24:00

「教務情報→科目登録申請」から申請してください。

- 郵送による申請 2月13日(木)～2月27日(木)大学本部必着

「科目登録申請要項」内の「科目登録申請票」に必要事項を記入し、大学本部に郵送してください。

※次学期に再試験となる科目(p.4参照)は、登録の必要はありません。(自動的に登録されます)。

※教養学部生で面接授業を登録したい方は、併せて申請を行ってください。

※科目登録申請開始の8日前になっても「科目登録申請要項」等の関係資料が到着しない、あるいは紛失した場合は、大学本部学生サポートセンター(TEL:043-276-5111)にご連絡ください。

今学期で卒業もしくは在学期間満了で学籍が切れ、 引き続き在籍を希望する方は「継続入学」

出願方法・出願期間

- システムWAKABAによる申請 【第1回】11月26日(火)9:00～2月28日(金)24:00

【第2回】3月 1日(土)0:00～3月11日(火)17:00

「教務情報→継続入学申請」から申請してください。

- 郵送による出願 【第1回】11月26日(火)～2月28日(金)大学本部必着

【第2回】3月 1日(土)～3月11日(火)大学本部必着

資料請求または学習センターに来所し「学生募集要項」を入手して、同封の「出願票」に必要事項を記入し、大学本部に郵送してください。

出願時の科目登録で、面接授業・ライブWeb授業を登録したい方への注意事項

- システムWAKABAによる申請のみ 2月13日(木)9:00～2月28日(金)24:00

※必ず、上記期間内にシステムWAKABA内、「教務情報→継続入学申請」から申請してください。

上記期間外または郵送出願の場合は、面接授業の科目登録はできません。

※面接授業・ライブWeb授業の登録のみでは入学できません。放送授業またはオンライン授業から1科目以上登録が必要です。

卒業が見込まれる全科履修生

2月13日(木)公開予定のシステムWAKABA「教務情報→履修成績照会」、または、2月18日(火)に本部から発送予定の「成績通知書」でご自身が卒業となるかご確認のうえ、必要な手続きをしてください。詳しくは「学生生活の栞」p.92~をご参照ください。

卒業となる方…再入学を希望する場合は「**継続入学**」

卒業とならなかった方…次学期も学籍がある場合は「**科目登録申請**」

次学期に学籍がなく、引き続き在籍を希望する場合は「**継続入学**」

公開講演会のご案内

道を拓き、山を守る 吉野林業の盛衰と再生

日本最古の人口造林と言われる吉野美林は、約500年にわたり培われた造林技術と山主より林地の管理運営を託された山守の制度によって育まれてきた。

しかし、1980年以降、林材価格の下落からその制度は崩壊し山林荒廃が顕在化し始めた。経済活性と環境保全を両立する持続可能な林業方式とは？ 長年にわたる吉野林業の盛衰に関する体験談を通じて、日本の林業の再生を共に考えたい。



【講師】岡橋 清隆 氏

奈良・吉野の五大林家の一つ岡橋家の次男として生まれる。1980年をピークに吉野林業特有の山守制度が危機に瀕し、山林の荒廃が顕在化し始めた時に、山に入り道づくりに取り組み始める。傾斜地に路網造成事業に立ちはだかる多様な課題の克服のため、大橋慶三郎氏より高密度林内路網を創るための技術を習得する。現在、吉野林業地帯をはじめとした林地に高密度林内路網を導入しようと、後進の育成を含めて精力的に取り組まれている。

【日 時】2025年2月1日(土)10:00~12:00

【定 員】100名(先着順)

【会 場】放送大学栃木学習センター2階大講義室

【参加費】無料

【参加方法】会場参加、またはZoom参加

【申込方法】QRコード、または以下のURLから申し込みフォームに入り、必要事項を入力のうえ、送信してください。

URL <https://forms.gle/CgDqaJ59ddaHGK1w8>



Zoom参加の方には、参加方法について追ってメールでご連絡します。
コンピュータでのお申し込みが不安な方は、栃木学習センターまでお電話ください。

特別ゼミのご案内

【対象者】栃木学習センターに所属する学生(学生種は不問。ただし休学者は除く。)

【注意事項】全ゼミ先着順です。正規の単位としては認められません。

受講料は無料ですが、材料費など実費がかかる場合があります。

【申込方法】栃木学習センター事務室窓口・電話・FAXのいずれかの方法でお申し込みください。

FAXの場合は氏名・学生番号・希望のゼミ名・ご連絡先を明記してください。

【申込期間】1月11日(土)9:00～各ゼミ開講1週間前まで

①ことばの不思議を考える

講師:佐々木 一隆(ささき かずたか) [専門分野/英語学、言語学]

第2学期特別ゼミ(後半)のテーマは、「ことばの不思議を考える」です。まずは、第1学期特別ゼミ(前半)「言語学講読:ChomskyとLakoffを読む」をふりかえり、ことばがもつ構造と意味機能を確認した上で、ことばの不思議をみなさんといっしょに考えます。そのあと、新たなトピックも取り上げて、ことばの不思議をさらに考えながら討論していきます。

なお、前半に参加されなかった方々の受講も予想されます。このため、前半の内容をもとに(英語文献を原文で読む意義とコツを述べた)拙論も配布して解説します。今回の特別ゼミでは、以下のトピックを取り上げる予定です。

- ことばの構造と意味機能をめぐる不思議:ChomskyとLakoffの言語観
 - 母語が獲得できる不思議:「ら抜き」ことば、Wh疑問文など
 - ことばの比較から見えてくる不思議:日中英3言語の関係節など
 - 受講者のみなさんが感じていることばの不思議にも応える。
- 質問やコメントを歓迎します。よろしくお願いします。

日	時	2月1日(土)13:30～16:30	定 員	15名
会 場	演習室Ⅱ	持 ち 物	日本語と英語の辞書 (冊子体と電子版どちらでも可)	

②雑談について雑談する

講師:渡邊 信一(わたなべ しんいち) [専門分野/工学教育、感性工学]

近年、コミュニケーションやチームビルディングのためのツールとして雑談が目目・見直され、雑談力・雑談術という言葉を目にすることが多くなりました。日常生活や皆さんの身の周りでの雑談を客観的に見直し意見交換を行いたいと思います。

日	時	2月2日(日)9:30～16:30	定 員	15名
会 場	演習室Ⅰ	持 ち 物	なし	

次ページ以降に、③～⑦が続きます。

③地震学の現状と地震に対する備え

講師:伊東 明彦(いとう あきひこ) [専門分野/理科教育学、地球物理学]

日本は世界的にも地震が多い国ですが、日本の地震活動の現状について最先端の地震学ではどこまでわかっているのでしょうか。

地震学の歴史、プレートテクトニクス理論、公表される最新の地震情報、などを概観したうえで、日本で暮らすための心構えなどについて参加者で議論したいと思います。

日 時	2月8日(土)13:30~16:30	定 員	15名
会 場	演習室 I	持 ち 物	なし

④家族関係を通して自分を考える

講師:下郷 大輔(しもごう だいすけ) [専門分野/犯罪心理学、家族心理学]

ジェノグラム(家系図)を使って自分について省みることを目的とした授業です。(内容は昨年度と同様です。)

ジェノグラムの書き方、読み方について授業を行い、ゼミの後半では、自分の家系図からご自身を客観視することを体験してもらいたいと考えております。

日 時	1回目2月9日(日) 2回目2月15日(土) 共に13:30~16:30 ※原則、両日参加	定 員	10名
会 場	演習室 II	持 ち 物	筆記用具

⑤歴史史料を紐解く

講師:丸茂 博(まるも ひろし) [専門分野/日本近代史]

歴史の教科書や概説書、専門書などはいずれも古文書や古記録をはじめ、過去の事象を記録した様々な形態の史料をもとに叙述されていますが、一般的にその基礎となる史料自体を直接読む機会はほとんどありません。しかし史料を見ていると意外なことに気づくことも多く、崩し字の難しさなどの故に史料を遠ざけてしまうのは勿体ないことでもあります。この講座を通して史料に親しみ関心を高め、そしてそれをもとに歴史を考えていくことの楽しさを感じていただければと思っています。取り上げる史料は、明治時代の軍人乃木希典とその縁の人が交わした書簡類です。そこには、本県の県議会議長を務め、衆議院議員にも選出された横堀三子の書簡も含まれています。講座では特に、乃木の死の直前の書簡を通して乃木と彼をめぐる人たちとの数奇なかかわりをたどっていきます。崩し字が読めなくても大丈夫なので、興味ある方はぜひご参加ください。

日 時	2月16日(日)13:30~16:30	定 員	10名
会 場	演習室 I	持 ち 物	なし

⑥SDGs時代に吉野林業を考える

講師:平井 英明(ひらい ひであき) [専門分野/土壌学]

日本の三大林業のひとつである吉野地域における林業の特徴を、環境条件、地理的条件、歴史的条件の面から、現地聞き取り調査やフィールド調査に基づいて紹介する。吉野林業の成立過程の理解に基づいて、現在の吉野林業の抱えている課題を現地聞き取り調査やフィールド調査を通じて紹介する。さらに、この抱えている課題を解決する方策として、SDGsの中でも経済成長と環境保全を共に実現してきた現地の人々の工夫から、今後の吉野林業の在り方について、ゼミ形式で受講生とともに、意見交換をしながら、持続可能な吉野林業について考える。

日 時	2月22日(土)9:30~16:30	定 員	10名
会 場	演習室Ⅱ	持 ち 物	情報検索ができるパソコンやiPad ※Wi-Fiの利用には事前にシステムWAKABAからID・パスワードの申請が必要です。 申請方法について、詳細は次ページ参照。

⑦コンピュータの高速化 ~人間くさい裏技を知る

講師:横田 隆史(よこた たかし) [専門分野/計算機工学]

現在さまざまな場所・用途でコンピュータが使われており、そのおかげで我々は豊かな生活を送れるようになってきました。コンピュータは先端技術の結晶と言えますが、その発展は、少数の天才のヒラメキよりむしろ、多くの先人たちの創意工夫の積み重ねによって支えられてきました。我々は往々にして、コンピュータは難解なものとの先入観を抱きがちですが、たいていの場合は複雑な理論や方程式などがあるわけではなく、むしろ日常生活にも見られるような事柄がベースになっていることが多いのです。本特別ゼミではそれらの一端を紹介し、今どきのコンピュータの仕組みを解きほぐしていきます。

日 時	3月2日(日)13:30~16:30	定 員	20名
会 場	演習室Ⅰ	持 ち 物	なし

教務だより

利用の手引き 発行廃止のお知らせ

年に一度、栃木学習センターで発行しておりました「利用の手引き」につきまして、2025年度から紙媒体での発行は廃止いたします。
栃木学習センターWebサイトにてPDF版を公開予定ですので、必要な方は、適宜プリントアウトしてご利用ください。



図書だより

Wi-Fi利用申請方法の変更のお知らせ

栃木学習センターでは図書視聴覚室や談話室で無料Wi-Fiを利用できます。これまではWi-Fiを利用するためのID・パスワードの発行を窓口でしていましたが、今学期からは、システムWAKABAで申請・発行ができるようになりました。手順は下記のとおりです。

1. 情報セキュリティ研修を受講

システムWAKABAトップ画面、学内リンクの「放送大学自己学習サイト」より「情報セキュリティ研修(学生用)」を受講。動画コンテンツ視聴後、小テストを満点で合格することが、ID・パスワードの発行条件です。

※合格状況が反映されてID・パスワードの利用申請ができるようになるのは、翌朝10時からです。

※面接授業等でWi-Fiを利用予定の方は、授業前日には申請ができるよう余裕をもって受講することをおすすめします。

2. 翌朝10時以降に利用申請を行う

システムWAKABAトップ画面>各種届出・申請様式>「無線LAN利用申請書」内のURLから、申請画面へ。



Googleにログインをクリックして【キャンパスメールアドレス】でログインした後、無線LAN利用申請をクリック。

氏名入力>無線LAN利用条件に同意>「申請する」ボタンを押す>ID・パスワードが即時発行。



【キャンパスメールアドレス】

ハイフン抜き学生番号(数字10桁)
@campus.ouj.ac.jp

図書視聴覚室 閉室日のお知らせ

3月22日(土)は新学期教材配架作業のため終日閉室となりますので、ご了承ください。

「学生図書リクエスト」受け付け終了

12月25日(水)で、2024年度学生図書リクエストの受け付けは終了となります。

来年度も皆様からのリクエストをお待ちしております。

学生研修旅行のご報告



9月14日(土)に、2024年度学生研修旅行(東京方面)を開催しました。

22名が参加し、午前中は「日本科学未来館」を見学。午後は「羽田空港」を訪れました。

日本科学未来館では、ロボットやインターネット物理モデル、国際宇宙ステーション等の展示を見学しました。施設内には体験型のブースも多くあり、先端科学技術を体験しながら、科学技術の社会に対する役割と未来の可能性について学ぶことができました。

羽田空港では、英語を使って外国人観光客との交流を楽しむ学生や、展望デッキにて他の参加者と昼食を取りながら談笑する学生の姿も見られ、学生、職員の交流を深める良い機会となりました。

次回の学生研修旅行も日程が決まり次第「とちの実」や栃木学習センターウェブサイトでお知らせします。皆さんお気軽にご参加ください。



所長とランチのご報告



10月26日(土)、伊東所長と学生有志でランチ会(学生サークル「友の会」主催)を開催しました。面接授業の昼食時間に13名が参加。所長自己紹介や学習センターの取り組み、参加者の入学の動機、勉強方法、学習センターへの要望などが話され、所長を囲みながら全員で話題を共有することができました。

学生同士が直接接する機会が少ない放送大学ですが、栃木学習センターではこのような会が定期的に行われています。

次回の所長とランチも日程が決まり次第、「とちの実」や栃木学習センターウェブサイトでお知らせします。皆さんお気軽にご参加ください。





2024年度第1学期卒業生から アドバイスやメッセージをお寄せいただきました

卒業生代表挨拶

円谷 美月 ～心理と教育コース卒業～



本日は、私たち卒業生のために式典を催して頂き、ありがとうございます。

卒業生を代表して、ひと言ご挨拶申し上げます。

私は今、とても晴れやかな気持ちで卒業の日を迎えています。

この学生生活は大変なことも多かったですが、その分とても充実したものになったからです。

4年前の入学当時はまだ高校を卒業したばかりでしたが、大学でなにかを学んでみたいという思いで入学しました。何を勉強するか考えた際、中学生の頃スクールカウンセラーの方にお世話になったときから心理学に興味がわき、いつか勉強してみたいと思っていたので、心理と教育コースを選びました。

最初から4年で卒業しようと考えていましたが、本当に自分にできるのか不安を抱えていました。ですが、入学当初に学習センターの方からお電話で「無理はせず、頑張ってください」と言ってくださり、とても励まされたことを覚えています。また、普段あまり他の学生さんとは会わない中で、面接授業で色々な方とお話出来たのも勉強のモチベーションに繋がりました。面接授業でお会いする方は同年代の方から私よりずっと年上の方まで幅広く、色んなひとが頑張っているんだ、私も頑張ろう、と刺激を受けました。おそらくここにいる卒業生の皆様もこういった経験があるかと思われます。こうした経験が卒業への原動力になりました。

面接授業ではこういった充実した経験が多く、一番好きな授業形態でした。科目も様々なものがあり、私が受けたものでは雑草の授業やロシア文化の授業、近代日本の小説を読む授業など面白い授業がたくさんありました。色々な知識や文化に触れることで、もっと見聞を広めたい、と強く感じました。また、心理学実験の授業も深い学びを得ることが出来ました。実際に使われている心理検査を実施する側と受ける側の両方を体験することで、患者さんに対する接し方を学ぶことが出来ました。

ですが、やはり大変な事も多かったです。一つは心理学実験のレポート課題です。心理学実験の授業では必ずレポート課題があるのですが、一度その提出期限が単位認定試験の時期と近かったことがあり、試験の勉強と両立するのが大変でした。また、レポート課題では統計学の知識やWord、Excelの知識も必要になり、それらの知識が薄い中でレポートを作成することも苦労しました。しかし、先生方や一緒に授業を受けた学生さんに助けられ、励まし合うことで、無事単位を取ることが出来ました。

もう一つは、心理学実験の授業を受けるために茨城まで行ったことです。私は資格を取るのに必要な単位を勘違いしてしまい、卒業までに単位が足りないと言うミスをしてしまいました。そのため心理学実験を一学期に2つ取ることになってしまいました。レポートをいっしょにたくさん書かなくてはならず、とても苦労したことを覚えています。ですが、他の学習センターの雰囲気を見られたり、県外の学生さんと交流出来たりと、良いことも多かったです。

4年間を振り返ってみると、人に助けられたことがとても多かったです。先生方や学生の皆さん、家族にもとても助けられました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

また、ミスをして案外なんとかなる、ということも感じました。私はミスをするほど深く落ち込んでしまうことが多かったのですが、ミスをしてそこで終わりじゃ無い、そこから挽回していけば良いとポジティブに考えられるようになりました。

さらには、私はあまり自分に自信がなかったのですが、無事4年で卒業できたこと、様々な苦労を乗り越えられたことで、自信が持てるようになりました。これから先も色々な苦労があると思いますが、この経験を糧にして乗り越えて行きたいです。

最後になりましたが、学習センター所長様をはじめ、指導して下さった先生方、そして家族に感謝を申し上げます、卒業生代表のご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。



岩爪 恵子 ～社会と産業コース卒業～

はじめは科目履修生でキャリアアップの為に、途中で本部から入学金が一度で済むという勧めで全科履修生になり15年越えて今回卒業になりました。ただ、その時々知りたいことの科目を選択して学びました。始めの頃はラジオの教科はFM放送で電波が取りにくくバタバタしました。でも、今はネットやBS放送で楽々視聴、余裕ある学習ができるのは嬉しいことです。健康のことも経済も食料のこと、隣から倒れこむ枝木の対処さえ放送大学の授業で教えて頂きました。卒業研究では毎日悩まされている『ごみ問題』をテーマにし先生方のご指導で、見えなかった現状を把握し問題解決の方法をまとめることができました。私にとっての放送大学での学びは、若い時に学んだ知識だけでは足りない『新しい知識』を得、自らの生活を豊かにすることです。

学び続けた12年

篠崎 節子 ～人間と文化コース卒業～



12年間在籍した放送大学を卒業する事が出来ました。

勉学に研究に深く取り組んでいる息子を見てうらやましく思っていました。そんな時、2011年、世の中のすべてが変わってしまうような東日本大震災がおこりました。その時に思いました。勉強したいなら始めればよい、今からでも遅くはない、行動しよう。

そして人間と文化コースに入学しました。初めてのマークシートのテストでした。勉強は楽しく道しるべとしてのエキスパート認証制度の異文化理解支援、芸術系博物館活動支援、歴史系博物館活動支援を取得しました。

12年の間には試験当日行けなくなったり、面接授業に行けなくなったり、さまざまな困難がありました。コロナ禍で学び方や試験も大きく変わり、時間の確保が難しい私には、非常に助かりました。夜中に試験を受ける事も多くありました。

知識を得る喜びを味わい、面接授業では、多くの事を経験させてもらいました。

放送大学で学んだことは私の自信となり、あきらめない気持ちや成しとげる力の源になりました。長い間ありがとうございました。



3つ目(放送大学では初)の大学卒業に寄せて

菅又 さゆき ～心理と教育コース卒業～

この度、まるまる10年かかり、放送大学を卒業しました。入学したのは、2014年秋。まだ東日本大震災から日が浅い頃です。入学の半年前、他の通信制大学を卒業して国家資格まで取りましたが、物足りなさが残りました。教職と心理学を勉強したいが、放送大学では、認定心理士を目指し、その後、中退し(学士はあるので認定心理士は取れると思った。)教職を目指す為、元の通信制大学へ行こうと思ってました。入学して何年目かに公認心理師法が成立。目標を切り替えました。教職は、ここで諦めました。しかし結局、勉強はしたものの、一度も試験を受けず時限の経過措置は終わりました。認定心理士は、思ったより時間はかかりましたが取ることができました。私は、公認心理師法が成立したとき、既にここの大学生でしたから無期で経過措置がまだあるのです。但し大学院に進み、実習も熟さないとなりません。お金と時間と年齢等をクリア出来たら大学院に進めるでしょう。それまでは、また再入学して若干心残りの心理学の勉強(ユングとフロイト他)と苦手だった科学の勉強をして気候変動や地球温暖化、熊問題、食料問題、マイクロプラスチックなどの勉強をして私なりに地球に貢献出来たら幸いです。(少し大げさですね。)何の勉強であっても常に勉強はして行きたいですね。

追伸:面接授業で各地の学習センターに行けたのは良かったです。三重県の学習センターに行き帰りに伊勢神宮にお参りにも行きました。

田中 一郎 ～心理と教育コース卒業～



私は技術系のサラリーマンでしたが、40代後半に心理カウンセリングに興味を持ち、放送大学の「教育と心理」専攻に入学しました。妻も一緒に入学し、彼女は心理カウンセラーになりました。私は「認定心理士」の資格を取得し、その後定年を迎えましたが、定年後にはキャリアコンサルタントの資格を取得し、現在はキャリアカウンセラーとして働いています。この仕事においては放送大学で学んだ心理の知識が役立っています。放送大学は社会人にとって自分のペースで習得できることがありがたかったですし、また面接授業での実習はとてもよい経験になりました。平成19年に入学してから17年かけての卒業となりましたが、とても充実した時間でした。この場をお借りして教員の皆様、スタッフや関係者の皆様に感謝申し上げます。次は「生活と福祉」専攻に再入学する予定です。放送大学での学びが、これからも皆様の人生を豊かにしてくれることを願っております。



これからも

野手 共信 ～情報コース卒業～

放送大学で印象深い思い出は面接授業です。入学して右も左もわからなく頑張ろうという思いだけが強い中、面接授業を履修していくうちに、たくさんの先生や仲間たちとの出会いがあり、ともに授業を共有し、切磋琢磨し、話せる人が少しずつ増えて楽しくなるのを実感していきました。その一つ一つの楽しい経験の積み重ねが、励みになり結果的に4年で卒業することが出来たと思います。

なにより、私と関わっていただきました放送大学の皆様と支えてくれた家族に深く感謝致します。

今後ですが、まだまだ経験してみたい面接授業がたくさんあるので履修しようと思います。これからも、皆様宜しくお願い致します。

深田 由美 ～生活と福祉コース卒業～



私は、大卒&看護学の学位&認定心理士の資格取得を目指し入学しました。3年次編入のため在籍期間6年の中で必要な単位を取得するためには思ったより余裕がなく、また途中で転職し仕事が忙しくなり課題の提出に間に合わないこともありました。授業はいつでもインターネット配信で受けることができるので家事をしながら聞き、テキストは主にテストの時に過去問やテスト問題で大事なところの復習をする機会として利用しました。途中卒業研究の審査に通らなかった時には落ち込み、自分はまだ仕事や子育てに忙しい時にわざわざ大変な思いをして何をしているのだろうかと思いましたが、所長さんと直接面談し相談できたおかげでまた前を向くことができました。大学生の娘と一緒に学割を利用したり、面接授業ではキャンパス内を学生気分です歩いてみたり楽しむこともできました。知識が増えたことで自分の視野も広がり入学して良かったと思っています。

新任・退任職員挨拶

令和6年12月から栃木学習センターに勤務することになりました、小俣(おまた)です。様々な分野で、生涯学習の広がりや深まりが進んでいる今日、皆様の学びへのサポートを通して、私自身も学びの毎日であることを実感しています。今後、皆様との交流などを通して、実りある学びを当センターで共に実感できるよう務めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

小俣(教務担当)

11月30日をもちまして、退職いたしました。在職中は大変お世話になりました。業務を通して多くの経験をさせていただき、学生の皆さまと一緒に面接授業で日光に行ったことや学生研修旅行に行ったことは良い思い出です。日々の関わりの中で、皆さまがいつも温かく接してくださったこと、感謝しております。皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

関山(教務担当)

キャンパスカレンダー

…閉所日
 …面接授業
 …試験
…特別ゼミ
 ★…行事

※変更になる場合があります。

1月

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

1月の予定

- 4・5日 面接授業「心理検査法基礎実習」
「ゲーム理論で読み解く社会と進化」
- 5・12日 面接授業「栄養の基本と食の自己管理」
- 11・12日 面接授業「フランス語入門：文法＋日常表現」
- 18・19日 大学入学共通テストのため臨時閉所
19日 単位認定試験実施期間(記述・併用)〈～23日〉
単位認定試験実施期間(択一)〈～27日〉

2月

月	火	水	木	金	土	日
					① ★	②
3	4	5	6	7	⑧	⑨
10	11	12	13	⑭	⑮	⑯
17	18	19	20	21	⑳	㉓
24	25	26	27	28		

2月の予定

- 1日 公開講演会「道を拓き、山を守る」
特別ゼミ「ことばの不思議を考える」
- 2日 特別ゼミ「雑談について雑談する」
- 8日 特別ゼミ「地震学の現状と地震に対する備え」
- 9・15日 特別ゼミ「家族関係を通して自分を考える」
- 13日 2025年度第1学期科目登録申請期間(郵送)〈～2/27〉
2025年度第1学期科目登録申請期間(Web)〈～2/28〉
システムWAKABA：学部・大学院成績発表
- 14日 特別ゼミ「天体観測-惑星、星座、星雲の観察-」
- 16日 特別ゼミ「歴史史料を紐解く」
- 18日 成績通知書発送
- 22日 特別ゼミ「SDGs時代に吉野林業を考える」
- 25日 宇大個別試験のため臨時閉所

3月

月	火	水	木	金	土	日
					1	②
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15 ★	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

3月の予定

- 1日 2025年度第1学期出願受付開始(第2回)〈～11日〉
- 2日 特別ゼミ「コンピュータの高速化
～人間くさい裏技を知る」
- 12日 宇大個別試験のため臨時閉所
- 15日 修士論文発表会・卒業研究発表会
- 22日 図書・視聴学習室 終日閉室

学習相談日(1月～3月)

主に土曜日(13:00～17:00)に学習相談日を設けています。ご希望の方は「学習相談申込書」にご記入のうえ、事前に事務室までお申し込みください。

※専門分野とは各教員の核となる分野であり、これよりも広い分野の学習相談に応じることができます。

※先生の都合により日程が変更になる場合がありますのでご了承ください。

教員名／現職	専門分野	相談日		
大森 玲子 宇都宮大学教授	食物学 食生活学	1/11	2/8	3/1
岡澤 慎一 宇都宮大学教授	特別支援教育	1/11	2/8	3/15
佐々木 一隆 宇都宮大学名誉教授	英語学 言語学	1/11	2/8	3/1
清水 奈名子 宇都宮大学教授	国際関係論	1/11	2/1	3/1
下郷 大輔 作新学院大学講師	犯罪心理学 家族心理学	1/25	2/22	3/22
平井 英明 宇都宮大学教授	土壌学	1/11	2/15	3/8
横田 隆史 宇都宮大学教授	計算機工学	1/11	2/8	3/8
渡邊 信一 宇都宮大学准教授	工学教育 感性工学	1/11	2/15	3/8
伊東 明彦 栃木学習センター所長	理科教育学 地球物理学	随時対応		

放送大学栃木学習センター

〒321-0943 宇都宮市峰町350(宇都宮大学峰キャンパス内)

TEL:028-632-0572 FAX:028-632-0570 E-mail:tochigi-sc@ouj.ac.jp

HP: <https://www.sc.ouj.ac.jp/center/tochigi/>

【開所時間】 9:00～17:30 (窓口・電話対応は9:00～12:00・13:00～17:30)

【閉所日】 月曜・祝日休

「とちの実 第135号」は12月現在で栃木学習センターに在籍している学生にお届けしています。
次号は4月号発行予定です。(「とちの実」は年4回発行)